



フェアトレード

福井市立足羽中学校 3年 齋藤 由芽

ガーナ共和国を知っていますか。そこはアフリカ大陸の西側、隣にはコートジボワールなどたくさんの発展途上国があります。首都はアクラで人口約2500万人の国です。ガーナといえば、ダイヤモンド、金、そしてチョコレートの原料となるカカオ豆の産地として有名です。けれど発展途上国であるガーナでは、お金がなく、学校に行けずに働かなければならない子どもがいたり、食べ物が足りなくて栄養失調になったり、戦争でけがをして障害をもったり、死んでしまう人もいます。

私は最近、ガーナの農園で働く兄弟のビデオを見ました。2人は、朝から晩までカカオ農園ではたらい、かせいだお金を病気の母に送っていました。1日の食事は2回で、量もすごく少なかったです。兄の宝物は、ぼろぼろになった1本のペンで、それを見たとき本当に悲しくなりました。私は、ペンをぼろぼろになるまで使いこんだことなんて1度もありません。私が今まで何も考えずに捨ててきたペンが、この兄弟にとってどれだけほしいもので、どれだけ大事なもののなのか。それを思うと本当に悲しくなりました。そして、私は同時に英語の授業で習った「フェアトレード」のことを思い出していました。

フェアトレードは、日本語に訳すと公正な貿易という意味で、普通に貿易で買うのでは安くなりすぎて、生産者の収入が少ない場合があるので、フェアトレードで適正な値段で買って生産者の生活を助けるのです。フェアトレードの商品には、チョコレート、茶、コーヒーなどたくさんの種類があって、必ずわかりやすいトレードマークがついています。

授業ではフェアトレードのおかげで学校に行けるようになったガーナの子供の話も聞いていました。それに、授業でフェアトレードのことを習ってから、私はフェアトレードの商品を買ってみたいと思っていました。私がなぜフェアトレードに興味をもっていたかということ、自分が商品を買うことで、貧しい生産者たちを助けられるというのがありますが、1番は教科書に載っていたフェアトレードのチョコレートの包装紙の柄がかわいかったからです。これを聞いたならばかだと言う人もいるかもしれませんが、私は別にそれでもいいと思います。だって、もし私が授業で、フェアトレードに興味をもたなかったら、ガーナの兄弟のビデオを見なかったかもしれないし、もし見なかったら私は本気でフェアトレードの商品を買いに行こうなんて思わなかったかもしれません。それに、ビデオを見ていなかったら、物を大切にしようとも思わなかったと思います。小さなことでも世界のために何かをするのがこんなに楽しいなんて思っていませんでした。